

トップマネジメント・コース

対象：取締役、執行役員、事業部長、部長

開催日程

時期：2017年7月～12月
 曜日：水曜日【毎週】
 時間：18:00～20:30
 合宿：3回及び海外調査1回
 全日数：27日(合宿込み・海外除く)
 講義：16コマ、グループ研究：19コマ
 海外調査：成長するアジア地域のビジネス環境を探る

コースのねらい

1. 多視点構想力 大局観を身につけ、ブレないビジョンを構想する力を養う
2. 共感価値実現力 組織の内外に共感を生み出し、価値創造につなげる人間力を磨く
3. 主体的革新力 自ら先頭に立って継続的に自己革新できる力を強化する

講師陣

■ コース委員長

松本 正義
住友電気工業 社長



浅羽 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授	坂本 幸雄	元エルピーダメモリ 社長
新 将命	国際ビジネスブレイン代表 (元J&J社長)	出口 治明	ライフネット生命 会長兼CEO
安藤 史江	南山大学大学院 教授	西山 茂	早稲田大学大学院 教授
内野 崇	学習院大学 教授	松井 忠三	良品計画 名誉顧問
加護野忠男	甲南大学 特別客員教授	松本 正義	住友電気工業 社長
木川 眞	ヤマトホールディングス 会長	山田 英夫	早稲田大学ビジネススクール 教授
木村 昌平	元セコム 相談役	山本 忠人	富士ゼロックス 会長
酒巻 久	キャノン電子 社長	米山 茂美	学習院大学 教授

(過去2年実績)

■ コーディネーター・グループ指導講師



加護野忠男
甲南大学 特別客員教授



内野 崇
学習院大学 教授



浅羽 茂
早稲田大学ビジネススクール 教授



米山 茂美
学習院大学 教授



安藤 史江
南山大学大学院 教授

参加メンバーの声 (甲南大学O・O)

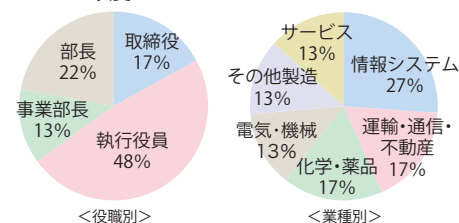
- 経営者の方々から実践的な話や、生々しい話を伺い、熱気や迫力を感じ、リーダーとしての信念、行動基準、心構えの大切さを学ぶことができた。視点を広げ、世の中のためになるように経営を実践していく事が重要だという根本的な考え方が身についたことは成長できた点である。(電気・機械・事業部長)
- 企業経営の修羅場を勝ち抜いてこられた著名な経済人による迫力満点の講義、また、高名な大学教授によるハイレベルでありながら大変わかりやすい講義、書物やメディアでは決して学習することができない体験ができた。(製造・部長)
- 経営に関する諸知識(戦略理論、経営知識、分析フレーム、組織変革、イノベーション等)について、あらためて体系的に学ぶことで頭の整理ができたと同時に新たに獲得した知識も多々あった。物事や事象をとらえる際の視野の広さ、柔軟性等について、一段成長できたと感じている。(IT・執行役員)
- 企業経営とは常在戦場であり、常に外的環境、内的環境を把握して、潰さずに成長する軌道(顧客創造とイノベーション)を描かなければならず、そのためには、哲学を持った経営理念、それを理解して働く人材が重要であることを改めて学んだ。言動・アウトプットの背景にある本質的な問題を見極めることができるようになったと成長を実感している。(運輸・部長)

グループ研究 (2015年度)

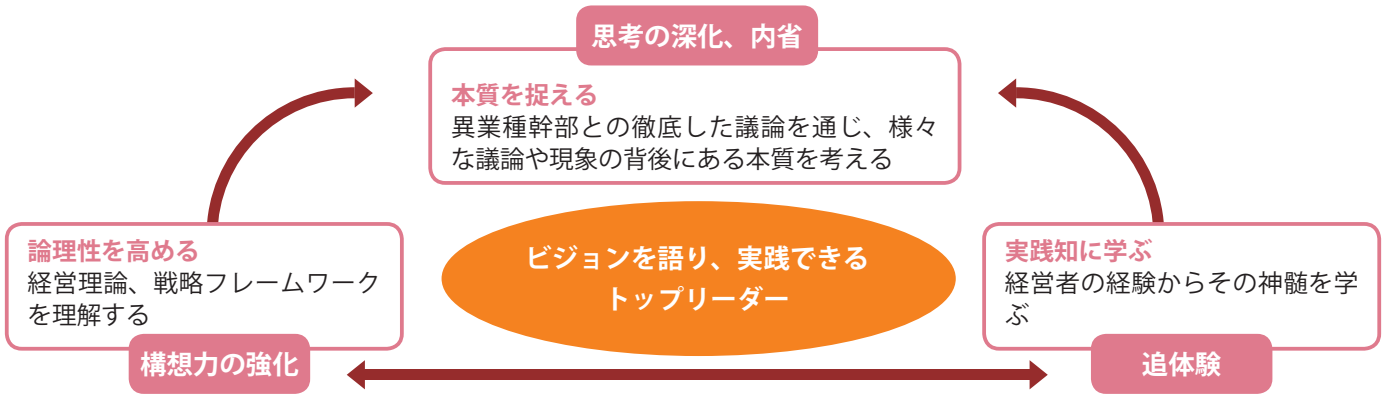
- Aグループ** メイドインジャパンを世界へ
越境ECサイトを活用し、中国での徹底的なマーケティングをパッケージ化したビジネスモデルを構築することで、地産品の輸出による地方創生が十分に可能であると提言。
- Bグループ** “働きたい”をつないで社会を元気にする
一億総活躍社会の成功には、育児休業を始めとした企業の福利厚生拡充等が不可欠。「保育所開設コンサルティング会社」による共有保育所の運営支援や「子育てあんしん共済」の制度化を提案。
- Cグループ** 『しあわせ度』の高い企業こそが勝ち残り続ける
従業員の真の満足度を『しあわせ度』と名付け、それを高めるための要素指標を、主要な業界別(金融、製造、IT等)に調査し、各業界の『しあわせ度』を高めるためのモデルをつくり、諸施策を提言。

参加者データ

■ 2016年度 [平均年齢51.2歳]



日本を代表する経営者による経営の神髄の伝授、講義やケーススタディを通じた戦略フレームワークの理解、異業種幹部との徹底した議論により、トップリーダーに求められるマネジメント力を磨く



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
7月	大局的な視点から本質を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界観、歴史観、文明観を身につける ■ 戦略の失敗に学び、トップ判断の重要性を考える 	<p>第1回合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネスモデルとロジックを検討する ■ 戦略構築のフレームワークを習得する 	<p>グループ編成 グループ研究【1-2】</p> <p>自己の振り返りと 研修目標の設定</p>
8月	経営者の経験と実践知に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営の本質とは何か ～経営構造改革におけるトップの役割 ■ リーダーシップのエッセンスとは何か ～勝ち残る企業づくり 	<p>第2回合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 経営視点の企業分析 ■ イノベーションと価値創造の進め方 	<p>グループ研究【3-4】 テーマ探索</p> <p>グループ研究【5-7】 テーマ発表</p> <p></p> <p>各講義の気づきと 学びを整理</p>
9月	組織をどういう方向に変えるのか 世界から日本を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織変革をどう実践するか ～ありたい姿、あるべき姿から構想する 	<p>海外(アジア視察)  ベトナム  カンボジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 世界・アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか ■ アジアの成長マーケットをどう取り込むか ■ 生産拠点・サプライチェーンをどう構築するか 	<p>グループ研究【8-9】</p> <p>中間振り返り</p>
10月	これからの経営を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客価値とビジネスモデルを考える ～違いをどう創り出していくのか ■ ビジネスイノベーション ～儲ける仕組みを考える 	<p>グループ研究【10-12】 中間発表</p> <p>グループ研究【13-14】</p>	<p>中間振り返り</p>
11月	リーダーの決断と実践を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業理念を経営に活かすには ～理念による組織運営とモチベーション 	<p>第3回合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 危機に問われるリーダーの覚悟 ■ トップリーダーに求められること 	<p>グループ研究【15-16】 集中討議</p> <p>グループ研究【17】</p>
12月	実践への応用を決意する	【グループ研究成果発表】	報告書とりまとめ【18-19】	研修成果の振り返りと実践目標の設定
2018年6月	フォローアップ	■ 研修後の取り組みに関する情報交換		

講義：16コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：19コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2016年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。